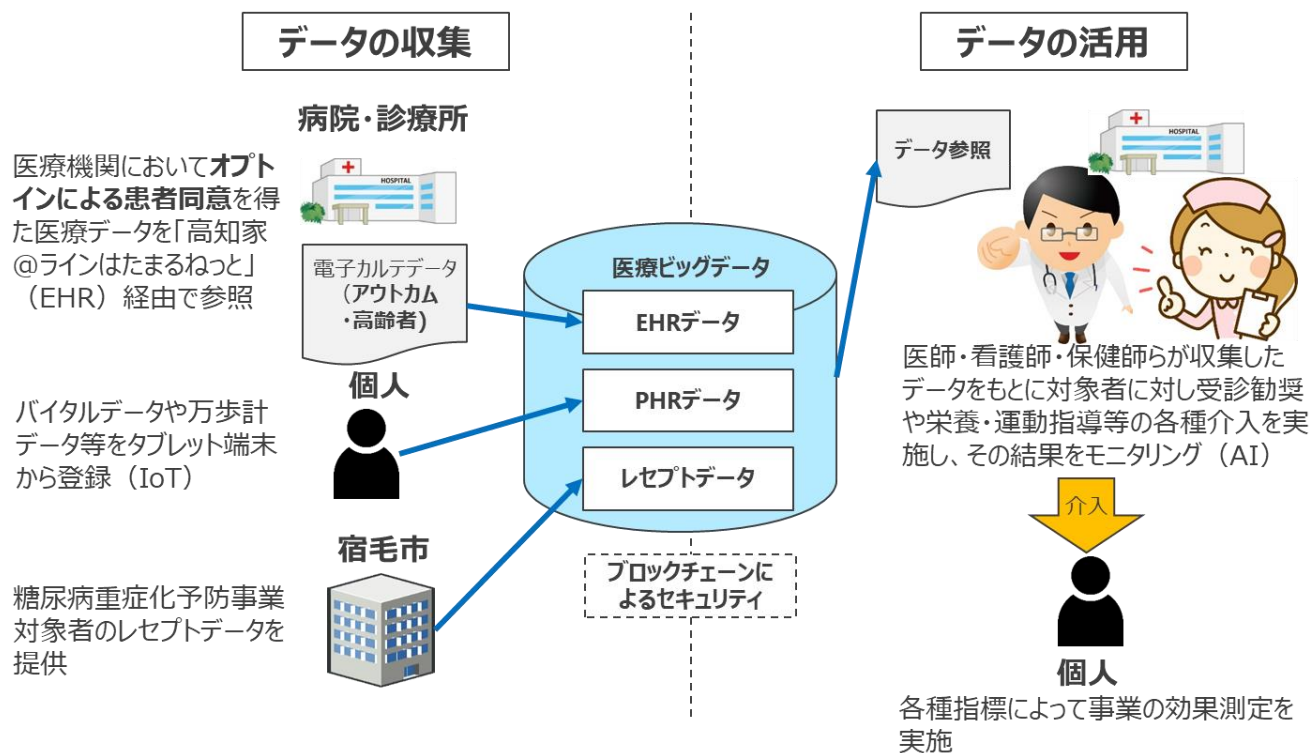


宿毛市等との連携協定及び
宿毛市における研究機関との連携による EHR、PHR を活用した
糖尿病重症化予防事業の実施について



地域次世代医療基盤研究協議会（事務局：東京都港区赤坂4丁目3番26号、代表：奥谷 陽一（高知県幡多医師会 会長））は、高知大学が開発し、現在幡多地域で展開されている「高知家@ライン はたまるねっと」（幡多地域医療情報ネットワーク（EHR：エレクトロニックヘルスレコード））を活用し、ここにPHR（パーソナルヘルスレコード）を組み合わせることにより、宿毛市において、病院・診療所を拠点とした患者への糖尿病重症化予防事業を2019年10月から開始します。これに先立ち、宿毛市と研究機関として一般社団法人 CiP 協議会、研究者として東京大学大学院医学系研究科、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の各研究者と連携協定を締結しました。

概要はつぎの通りです。

【社会的背景】

この15年でレセプト（診療報酬明細）電子化が進み、NDB（National DataBase）が構築され、レセプトデータの利活用は全国的に進んできました。

その一方で、レセプトデータにはインプット（診療行為の実施に関する情報）は含まれるものの、アウトカム（診療行為を実施した結果に関する情報＝電子カルテデータ・検査データ）が含まれないため、医療分野の研究開発のためにはアウトカムを含む医療情報の利活用が求められてきました。

このため、平成30年5月に「医療分野の研究開発に資するための匿名加工医療情報に関する法律」（「次世代医療基盤法」）が施行され、あらかじめ認定を受けた事業者であればオプトアウトに

よって収集したアウトカムを含む医療データ（電子カルテデータ、検査データ等）を二次利用できることになりました。

しかしながら、認定事業者となるためのセキュリティ要件の充足等から、なかなかアウトカムを含む医療データの利活用が進んでいないのが現状です。

【我々の取り組み】

高知県幡多医師会では、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、高知大学医学部公衆衛生学等と連携して、総務省の平成 28 年度第 2 次補正予算「クラウド型 EHR 高度化事業」により、高知県幡多地域（人口約 8.1 万人）において EHR システム「高知家@ライン はたまるねっと」を構築しました。「はたまるネット」では現在、約 6,000 人の患者の方々からオプトインによる同意を取得しており、既に約 50 万件のデータが蓄積されています。

地域次世代医療基盤研究協議会では、この電子カルテデータ・検査データに加え、患者自らが収集・蓄積する血圧や万歩計等の PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）を活用することにより、糖尿病の患者を積極的にケアすることを通じて、重症化予防を効果的に実施できることを実証します。

この取り組みによって、アウトカムを含む地域医療データの活用方法を示すことにより、今後、社会全体での地域医療データの利活用を促進させていきたいと考えております。

具体的には、宿毛市内の糖尿病患者を抽出し、EHR、PHR を使った重症化予防の取り組みを行う群（Ⅰ群）と従来の EHR、PHR を使わない重症化予防の取り組みを行う群（Ⅱ群）に分けて、事業の効果検証を行います。

今後の事業成果の普及展開とアウトカムを含む医療データの活用促進にあたって、次世代医療基盤研究協議会では以下の企業・団体や一般社団法人 CiP 協議会（株式会社エルテス、ソフトバンク株式会社、株式会社ディー・エヌ・エーを含む 50 を超える会員企業団体）など多様な主体と連携して、プロジェクトを進めていきます。

- ・ 特定医療法人 長生会 大井田病院（住所：高知県宿毛市中央 8 丁目 3-6）
- ・ 株式会社シーメック（本社：高知県高知市南久保 9 番 8 号）
- ・ テルモ株式会社（本社：東京都渋谷区幡ヶ谷 2-44-1）
- ・ HIAC ホールディングス合同会社（本社：東京都港区赤坂 4-3-26）
- ・ 株式会社パシフィックシステム（本社：高知県宿毛市幸町 5-12）
- ・ 保健情報分析センター株式会社（本社：熊本県熊本市中央区神水 2 丁目 7-6 井上ビル 101）

【お問い合わせ先】

名称：地域次世代医療基盤研究協議会

住所：〒107-0052 東京都港区赤坂 4-3-26 マスターズ赤坂 301

TEL：03-5114-6722

E-mail：hiac@hiac.co.jp

名称：株式会社パシフィックシステム

住所：〒788-0003 高知県宿毛市幸町 5-12

TEL：0880-63-0730

E-mail：info@pasys.co.jp